二番町

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	号 0270301963		
法人名	公益財団法人シルバーリハビリテーション協会		
事業所名	グループホーム市川		
所在地	84-1		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟

62 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	関名 社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は八戸市北部の国道沿いにあります。場所がわかりやすく、駐車場が広いため、車で面会に 来やすいです。利用者様は温かい日は花を見ながら散歩をしたり、夏季は野菜作りや花の手入れ等を 職員と一緒に行っています。

平屋建てでバリアフリーであるため、車椅子使用の方や歩行が少し不安な方でも大丈夫です。また、 系列の医療、福祉施設が多いため、本人の状況に応じて連携・対応しており、安心して生活することが できると思います。定期的にリハビリ専門職が訪問し、利用者様の心身状態を評価してもらい、利用者 様に合わせた援助を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

	項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目	↓該	取 り 組 み の 成 果 当するものに〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の O 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 〇 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66		0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
30	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが O 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が O 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟	1. ほぼ全ての利用者が				

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

自	外	-= D	自己評価	外部評価	
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.I	里念!	こ基づく運営			
		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	事業所の理念にはないが、地域貢献と住民 との関わりを持つ内容の年間目標を掲げて 取り組んでいる。朝礼時には理念・目標を唱 和している。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	運営推進会議時に地域の方に参加を依頼 し、事業所の状況を報告している。施設の広 報紙を町内に回覧してもらい、施設の内容 を見てもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	見学者の対応やボランティア等の受け入れ を通じて、事業所を紹介している。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	会議時に施設の状況を報告し、参加者から 意見を聞いている。今年度は参加予定者よ り書面で意見を聞き、その意見を踏まえて サービス内容の検討を行い、向上に努めて いる。		
5		〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には電話や窓口等で相談し、アドバ イスをもらっている。		
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認をしている。身体拘束禁止対象チェック表		
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について 学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での 虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、 防止に努めている	職員の利用者への対応や言葉遣い等が虐待に該当しないか、確認しながら介護をしたり、勉強会に参加している。虐待防止マニュアルがあり、それに従って対応している。		

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	利用者に数人、成年後見制度を利用している方がいるため、家族との関わりを通じて理解を深めている。必要な方には制度の説明をしている他、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	入居時や改定時には家族等に説明を行い、 同意を得ている。退居後も必要時に相談に 応じている。		
10		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並 びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に 反映させている	面会時や電話等で話をした際、意見を聞くようにしている。玄関に意見箱を設置したり、 毎年満足度調査を実施しており、要望・意見 を聞き、運営に反映させている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時に話を聞き、対応している。また、毎 月のスタッフ会議等で職員から意見を聞き、 反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	年2回以上健康診断を実施し、必要時は受診を勧め、職員の健康を保つように努力している。就業規則に基づいて勤務し、職員個々の事情に合わせて勤務調整したり、休みをとってもらっている。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	職員には半年毎に自分の目標を立ててもらい、介護をしている。職員に合わせた研修に参加し、研修後は報告書作成と伝達講習を行い、日々のケアに活かせるようにしている。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	地区のグループホーム協議会の活動に参加し、同業者との交流・連携を行っている。		

自	外	75 D	自己評価	外部評価	
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II .5	えいと	:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困って いること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、 本人の安心を確保するための関係づくりに努めて いる	施設見学や説明をした上で、入居希望が あった際には利用希望者や家族と面談して いる。入居後は声がけを多くし、信頼関係を 築けるように努力している。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、関係づくりに努めている	利用希望があった際には面談し、要望や不安な事を聞き、安心して入居できるように努めている。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から希望を聞き、その希望にできるだけ応えられるように努力している。状況により対応できない場合は、他の施設やサービスを紹介している。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴や好きな事を把握した上で希望を聞き、共感・理解して、得意な事、やりたい事を発揮できるように努めている。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	来所時や電話連絡時に家族へ本人の普段 の様子を報告している。家族からは以前の 生活情報を得て、要望を聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策で面会禁止であるが、家族来所時 はなるべく顔を見てもらう等、馴染みの人と の関係が途切れないように支援している。		
21		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブル等をできるだけ避けることができるよう、席の位置等を決めたり、お互い影響が残らないように声がけを多くし、孤立しないように心がけている。		

自	外		自己評価	外部評値	m
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		〇関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要時には連絡をとり、 相談や支援を行っている。また、これまでの 生活が継続できるよう、退居先の関係者に も情報を伝えている。		
${ m I\hspace{1em}I}$.	その		,		
23	(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人より思いや希望を聞いている。聞くことが困難な利用者には、普段の様子や生活歴、家族等の情報から思いを把握するようにしている。		
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	本人や家族等からプライバシーに配慮して 情報収集し、生活歴や好み等を把握するよ うにしている。		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活状況をアセスメント シートや介護記録等に記し、できる事・でき ない事を把握するようにしている。		
26	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	介護計画は本人や家族から意向を聞いた 上で、職員やリハビリスタッフ等から意見を 聞いて作成している。必要時にプランの見 直しをしている。		
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者の日々の様子や心身の状況、ケアプランの実施状況等を記録している。共有する内容は申し送りノートを使用し、全職員が把握できるようにしている。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーションと医療連携体制を整えており、週1回の定期訪問の他、急変時には24時間体制で対応してもらっている。3ヶ月に1回、生活機能向上のため、リハビリスタッフに心身の状況を評価してもらい、それを踏まえて介護をしている。受診時等、必要時は移送サービスを利用している。		

自	外		自己評価	外部評価	ш
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地区の民生委員や町内会長等から、地域 の情報を提供していただいている。今年度 は書面や電話等で行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を踏まえ、本人・家族と相談しながら受診先を決めており、必要時には歯科・眼科等の受診の相談、支援を行っている。職員が受診の介助をした際は、結果を家族へ報告している。必要時には電話や書面等で情報提供をしている。		
31		〇看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や 気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に 伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看 護を受けられるように支援している	定期訪問時や診療時等に、訪問看護ステーションの看護師や担当看護師等に相談し、 指導を受けて対応している。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 また、できるだけ早期に退院できるように、病院関 係者との情報交換や相談に努めている。あるい は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ くりを行っている。	入退院時には入院先の看護師・相談員と連絡を取り、連携しながら、安心して治療・退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取組んでい る	入居時に看取りについてのアンケートに記入してもらい、本人・家族からの意向を聞いている。医師や看護師からアドバイスを受けながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、急変時には それを基に職員は行動している。施設内に AEDを設置しており、殆どの職員が普通救 命講習を受講して使用方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	火災、津波、水害の避難訓練を行い、災害 発生時に備えて食料や飲料水を用意し、定 期的に点検を行い、管理している。		

自	外	- - -	自己評価	外部評価	T
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.	その				
36		〇一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重しながら、 介助や声がけをしている。職員には個人情報の取り扱いに気をつけるように説明し、カルテは使用時以外はスタッフルームで保管している。		
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて、なるべく自己決定してもらいやすいよう、選択してもらいながら聞いている。十分に意思表示ができない利用者には、表情や反応を読み取りながら行っている。		
38		人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	何か行う際は本人や家族の希望、心身の状況を踏まえ、本人のペースに合わせて対応 している。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	利用者の好みに合わせて衣類等を選び、着 てもらっている。希望に合わせて理容師に 来所してもらい、散髪をしている利用者もい る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れ、季節や好み等に 配慮しながら、献立を作成している。利用者 の心身の状況に合わせて、後片付けや下 拵え等を職員と一緒に行っている。		
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に 応じた支援をしている	一日の水分と食事摂取量を記入し、必要量を摂取できるように努めている。状況に合わせて食事形態を変更したり、早く食べる傾向がある利用者には、ゆっくり摂取するように声がけをしている。		
42		人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの能力に合わせて、毎食後、声がけや介助をしている。拒否のある利用者には少し時間を置き、声がけや介助をしている。また、居室にて行い、プライバシーを保つようにしている。		

自	外		自己評価	外部評価	ш
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(/	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、利用者毎の排泄パターンを把握している。それに合わせて、声がけが必要であったり、一人で行うことができない利用者には、プライバシーに配慮しながらトイレや居室へ誘導し、介助して行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取組んでいる	水分や食事に気をつけ、普段から体を動か すように声がけをしている。下剤使用時は本 人の排便パターン等に合わせ、服薬をして もらっている。		
45		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の希望や心身の状況に合わせて一 人ずつ入浴し、職員が介助をして好みに合 わせている。拒否のある利用者には時間を 置き、1日何回か声がけしたり、職員を替え て声がけして入浴している。		
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせて、休息や就寝の介助を行っている。慣れた自分の枕や 布団を持参している利用者もいる。不眠が ちな利用者には、日中の活動を多くしてもら うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	処方されている薬の内容をカルテに綴じ、確認できるようにしている。薬が変更した際は介護記録等に記入し、職員に周知できるようにしている。誤薬がないように職員二人で確認し、服用している。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望や能力に合わせて、掃除や 食器拭き・洗濯物たたみ等のお手伝いをし てもらっている。天気の良い日は散歩等を 行い、気分転換をしてもらうようにしている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策のため遠出はしていないが、時々 近場にドライブに行き、外出の機会を作るよ うにしている。		

白	外		自己評価	外部評価	
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所 持したり使えるように支援している	本人・家族と相談し、少額であれば所持している利用者がいる。時々施設内の自動販売機で飲み物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、一人で行うことができない利用者は職員が介助をしている。家族から電話がかかってきた際には、会話の内容が他利用者に知られないよう、居室で話をしてもらっている。現在、手紙のやり取りをしている利用者はいない。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、施設内は季節や時期毎に装飾を行っている。廊下の利用者が通る所には行事等の写真を飾っている。共用空間内は温度・湿度・日差しの状態に合わせて、その都度調節をしている。		
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	自分の席の他に、ホールにソファを設けて おり、そこに座り、利用者は一人で過ごした り、他者と話している。		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	ようにしている。家族の写真や普段利用して		
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	施設内の食堂・廊下・居室・トイレに手すりを 設置している。パリアフリーであり、安全に 歩行できるように配慮している。場所がわか らなくなる利用者には、トイレや居室前にわ かるように表示をしている。		